

# 一〇、輪廻を続ける細胞——六〇兆からなる肉体系細胞集団

( ページ 「貸与物である肉体」参照 )

臓器というのには、やったり取ったりしたら、拒絶反応を起こすんですね。

中には上手くいく人もいますけれどもね。そういう人は、貰ったことに對し、本当に感謝をしていますね。

当たり前だと思つて貰つた人は、絶対に拒絶反応を起こすんです。

細胞にしても、臓器にしても、その一つくには「心」というものがちゃんとあるのです。

私達の肉体は、縁があつて六〇兆という細胞が集まつて出来ている訳です。この世を終わつたら、焼き場で燃して、何もかも無くなつて、お終いではないのです。

私達には見えない世界で、六〇兆の細胞が分解していくんです。

そして、今度この世にまた出て来る時、その細胞が集まつて来て、私なら私の肉体を造り出していくのです。

永遠にこの組で続いていく訳ですよ。次に出た時には、他のものが集まつてくるんじゃないんですよ。同じものが集まつてくるんですね。

私達の六人のグループはグルグル……廻つて、彼等もこの組が分散した時に六〇兆に分散していくんですよ。またスーッと凝縮してくるんですよ。人間、考えたつて造れませんよ、こういうものは——。

そのぐらいね、尊い素晴らしいものなんですよ。

何処まで行つても、この肉体は大事なんです。大事にしなければいけませんね。

私も今まで医者にかかったことがないですから、もう乱暴な事をやっていたんですけどね、段々それが分かつてきて、「これはいけない」と思つたんですよ。

自分の肉体に對して、「ご苦労さん」って言ったことあるのか。——ないですね。

お蔭様で、私は高橋先生がいらつしやつた頃から、それが分かつてきて、肉体に語り掛けていますけれども、最初は訳が分からないでやつてましたよね。ただ有り難いと思つただけでしたけど、実際はこんなな有り難い事はないですよ。

ここ(この世)が終わつたら、また生まれ変わった時、これ(自分の肉体)と一緒に

になるんですよ。

ですから、身体の悪い人は、ちゃんと治して丈夫にしておかないと、同じ細胞が寄って来る訳ですから、この次に生れた時、弱い身体で出て来てしまえますよ。

何処までいっても、この肉体と自分は、ペアなんですよ、変わらないペア——。

ただ、生まれる処によって、眼の色が違ったり、肌の色が違ったりするだけです。ですから、お互いに協力を、協調する。自分の魂のグループ、肉体のグループと、お互いに協力協調、共存共栄しているんですよ。切磋琢磨している。

自分だけ勝手な事をやったら、こっち（肉体）は大変です。そうすると、怪我したり病気になる。全部が全部じゃないですけど、そういう事があるんです。まあ、普通は、「そんな事、ある訳が無い」と、お医者さんは言うでしょう。これは聞き入れてくれないから仕方がないですね。

ですから、医者にかかる人が、ちゃんとしたお医者さんを選べるようにしなければいけませんね、お金を出すのは自分ですから——。

今から十年前に、私の知り合いの医者が言っておりましたよ、

「後、十五年もすると、私達医者は、患者に信用されない時代がやって来ますよ」と。今、本当にそうなってきたらいいですね。お医者さん達が、本当の事を分からなくなってきたらいいですね。

そして毎年、何千人も医大を出て来ますから、そのうち患者より医者の方が多くなるんじゃないでしょうか。（笑）

お医者さんが、全部が駄目だと言ってるんじゃないんですね。医者でも学校の先生でも、本当は天職ですよ。しかし、あまりにもこの頃は、お医者さんがサラリマン化してきて、月給取りになってしまった。

「僻地の方に仕事がありますから行きませんか」と言っても、今のお医者さんは、みんな断ってしまうそうですよ。私も前に会った若いお医者さんに、

「あなたは、医者のいない山村とか、ボランティアの海外派遣医として行ったらどうですか」

「いやあ、ちょっと行きたくないですね」

「何故なの？」

「偉えくなれなくりますからねえ」

と言うんですね。物の中は、みんなそうなってしまうんです。みんな、「違う」とは言えないんですね。

僻地の方へ行ったらね、都会の事は中々分らないですよ。そして患者を診てあげたら、お金が入らない処もある。大根とか人参が入ってくるんですよ（笑）。

しかし、「それでもいい」って、やっている人もいますよ。内科医もやればね、歯医者さんもやってね、「さあ、何でもいらっしやい」というお医者さんの中にはいる。本当はこういう人がいないと駄目ですね。昔の「赤ひげ先生」って言うんでしょうか？——いないですよ。今こういう人が……。

これもやっぱり時代のせいじゃないでしょうか。まあ、「やれ」って言うてる訳じゃないですけど、中には僻地の処にだって行く先生もいますよ。